

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校
2022年度 学校関係者評価委員会 議事録

日 時 2022年6月2日（木） 15:00～17:00

会 場 新東京歯科技工士学校／新東京歯科衛生士学校
東京都大田区大森北1-18-2 03-3763-2200
※オンライン開催（ZOOMミーティング）

参加者 学校関係者評価委員会 出席者

区分	氏名	所属	役職
卒業生代表	渡部 みゆき	医療法人社団正翔会 横須賀歯科医院	マネージャー
保護者代表	横山 祐美子	歯科衛生士科Ⅱ部 在校生の保護者	
高等学校代表	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	校長
地域代表	中島 穰	公益社団法人 東京都大田区大森歯科医師会	会長
業界関係者	富田 基子	公益社団法人 東京都歯科衛生士会	顧問

【学園・学校関係出席者】

中村 道雄 学校法人東京滋慶学園 理事長
小川 昭久 学校法人 東京滋慶学園 理事
福原 達郎 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 学校長
三觜 雅子 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 副学校長
関口 崇之 学校法人 東京滋慶学園 副運営本部長
今井 リカ 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 事務局長
植田 慎司 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 教務部長
富野 浩子 新東京歯科技工士学校 学科長
大原 良子 新東京歯科衛生士学校 学科長
西村 充剛 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 キャリアセンター長(書記)

議 題 <会議の概要>

(進行：教務部長 植田)

1. 開会挨拶
2. 評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介
3. 本委員会の主旨説明
4. 2021年度の自己評価項目と評価内容の説明
5. 2022年度の重点目標と説明
6. 質疑応答・意見交換
7. 閉会挨拶

1. 開会挨拶（学校長 福原）

【委員の方へお礼の挨拶】

今年から2024年までの3年間、政府は“人に対する投資をする”方針を打ち出している。歯を治療し健康にしていく方針である。歯科業界の人材育成する養成校として、本日まで出席の委員の方の協力を得てこの問題に取り組んでいきたい。

2. 評価委員会のご紹介並びに学校側出席者の紹介（事務局次長 今井）

※2022年度委員会名簿を基に、オンライン上にてお一人ずつ自己紹介があった。

3. 本委員会の主旨説明（評議員 小川）

2013年から始まった職業実践専門課程が専門学校の教育に関する一定の質を担保している学校に業界の方、保護者などの利害関係者から評価されることで称号を授与することを目的とする。この課程を取得している専門学校は全体の約3分の1。かなり厳しい基準だが、滋慶学園は約9割が認可されている。まず学校なりに自己評価する。それに対し評価や提言をいただき、翌年の学校教育に反映させる。そのため学園でもこの委員会は重要だと位置付けている。

4. 2021年度の自己点検・自己評価 評価内容の説明（副運営本部長 関口）

昨年度の自己点検評価を、委員の皆様から2次評価をいただくため、改めて説明する。学内自己点検自己評価委員会で実施した内容について、委員の皆様にお送りしている。

- ・自己点検、自己評価表(1次評価) 65項目の小項目に対して評価(5段階評価)
- ・学校関係者評価表(2次評価) 全11の大項目に対して評価(3段階評価)

※お手元の資料は、1次評価の内容を要約・変換した内容

評価点とともに、各委員からのご意見をご記入いただきご返送いただく。

委員の皆様からの平均点数とご意見、議事録を本校HPにて情報公開する。

【自己点検・自己評価の内容に関する報告と解説】

学校の概要説明。1983年に開校し約40年となる。

歯科技工士学校は、2021年度歯科技工士科Ⅱ部の募集を停止し、午後部への名称変更とした。

※以下、特段の解説を行った箇所のみ記載

1) 教育理念・目的・育成人材像

滋慶学園は他分野を含めて80校の専門学校を運営している。グループ校では、歯科技工士3校、歯科衛生士7校、計10校の歯科関係教育機関を運営している。

学園グループ全体で、「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションを掲

「実学教育」「人間教育」「国際教育」の3つの建学の理念をもとに業界に人材を輩出している。また、中長期的な視点を持ち、教育の質向上を図っている。

2) 学校運営

事業計画を定め、運営方針を掲げている。組織目的から収支予算について単年度だけでなく5か年の計画をたてている。学校運営については運営会議および学科会議で共有を行っている。

運営組織

滋慶学園グループ 東京滋慶学園 学園グループや法人毎に理事会や分野別会議などの意思決定機関を用い、運用している。学校内でも運営会議を定め開催している。

教職員についてもコンプライアンスを遵守した組織体制をとっている。

3) 教育活動

事業計画書に基づいて中長期的な計画を立てて運営している。その計画のために学校運営を組織化している。単年度ではなく、2022-2026年までの事業計画をもとに学校運営を行っている。意思決定システムは月に2回運営会議を実施、学部会議を実施し適正な人数でコンプライアンスを遵守し運営している。

教育指導要領は教員と学生の“契約書”と位置付け、学生の到達目標を明記している。

Z世代の価値観の違いに対し医療にふさわしい態度を身につけているかという項目に対しその評価は2とした。まだ努力をしている段階と考えている。養成校として必要なカリキュラムと学校独自カリキュラムをおりませ、国家試験対策だけではなくキャリア教育にも注力している。成績評価、修了認定については「進級・卒業判定会議」を開催し適正に行っている。

4) 教育成果

就職希望者内定率：100%

国家試験合格率：99.3%

キャリアセンターを中心に、第1専門職への就職支援をしている。

国家試験合格率は、コロナ禍の影響を強く受けた学年であったが、近年では、一番の好成果となった。

ハイブリット型の授業が学生の学ぶニーズとマッチできていた結果である。卒業生についてはSNSを活用して情報発信、情報収集をしている。

5) 学生支援

就職に対する体制はキャリアセンターが担当している。2週間に1度の頻度で教務とキャリアセンターが学生の個別就職状況を共有している。

退学率は、1.6%と非常に良好であった。入学した学生の教育満足度が高かったと考えている。要支援が必要な学生の分類なども行い教員も研鑽を重ねており、週に2回専任カウンセラーが常駐している。留学生には留学生サポート会議を月に一度実施して情報共有し、具体的な支援案を実施している。また、グループの留学生サポートセンタースタッフとも連携している。卒業生の生涯就職支援体制として、卒業生も学内求人情報が検索できるシステムがある。

今後は、卒業後の再教育プログラムの開発をキャリアセンターを通じて取り組んでいく。

6) 教育環境

教育機器、設備については最新機器を整備している。館内はwi-fiが完備され、各教室はデバイス充電ができるようにしている。これらにより、自宅で学習環境が整いにくい学生も、教室開放にて学習する環境を提供することができている。

国際教育について

渡航が困難な状況につき、オンラインで実施した。海外の企業と SNS でつなぎ国際教育に取り組んだ。防災訓練については、年に1度防災訓練を実施している。

7) 学生の募集と受け入れ

学生募集活動は「募集要項」をもとに適正に行われている。

入学選考については、公正な評価のもと受け入れをしており、資格取得に必要な「欠格事由」についても入学前に説明している。

8) 学校の財務(財務情報の公開)

入学時の必要学費については、総額を「募集要項」で明文化している。

事業計画をもとに運営しており、財務について監事の監査および公認会計士による監査も受けている。

年度毎の事業報告書・財産目録・財務諸表を、学校の情報公開ページにて公開している。長期で予算計画を行い、適切な運用が出来ている。

9) 法令等の遵守(学校情報の公開)

教員が随時研修を重ねて情報蓄積をしている。

運営状態の情報公開をしており、文科省・厚労省の設置基準を満たしている。

個人情報管理は外部機関を通じて国際規格の承認を得ている。学校関係者評価委員会と教育課程編成委員から、意見をいただき教育環境の見直しを図っている。

10) 社会貢献

要望に対して備えはあるが、コロナ禍の影響により実施できていないため、評価2とした。

11) 国際交流

国際交流 国際的な教育を取り入れグローバルな視点をもった人材を育成することを目的としている。

コロナ禍の影響にあったが、オンラインにてグループ校の日本医歯薬専門学校、東京医薬専門学校とスウェーデンの歯科大学とオンラインにて交流会を実施した。

5. 2022年度の重点目標と評価に関する説明(事務局長：今井)

(数字報告)

衛生士学校 入学者 178名 全国の衛生養成校で一番多い学生数である。昨年度は、過去最短で定員充足をはかることができた。また退学者も過去最少数となり、国家試験合格率も成果を出すことができた。最重要課題としては、さらに専任教員の教育の質向上を目指し、外部研修を通じてオンライン授業の質向上を目指し学生の教育満足度を高めることである。

6. 質疑応答・意見交換

(森 委員)

・募集順調、国家試験対策も順調。退学希望者に対する初期対応はどうしているのか。

(今井) 兆候は出席率に表れる。欠席が継続した場合すぐに面談する。教職員のカウ

ンセリング力を上げる必要があり、学生が抱えている問題の主訴がどこにあるかを見極め、それらを乗り越えていくキャリア教育に力を入れる必要がある。

また、成績の落ち込みによってモチベーションが低下するため、定期試験前のまとめ授業や再試験前の個別対応をしている。

(中島委員)

細かい評価をされていることに感心した。大田区の災害対策にも協力していただいているので、今後も継続してお願いしたい。

(渡部委員)

・キャリア教育の成功例などはあるか。1年時から3年生に大きく変化した事例があったら教えてほしい。

(今井) いくつもそのような事例があり、特に臨床実習では現場でスタッフの方や患者さまに感謝の声をいただきモチベーションが上がった事例は多数ある。学内だけでは、学べない臨床実習の場にて皆様にご尽力いただいた結果であると考えている。

(渡部委員)

・コロナ禍の中で実習が減少したが徐々に回復していると考えていいか。

(大原) すべてではないがほぼ実習は現行カリキュラム通り実施している。

(横山委員)

・オンラインと対面の併用で学生の習熟度のちがいを聞きたい。

(今井) オンラインは何度も視聴できるので習熟度は高くなったといえる。オンライン授業の後に小テストを実施しているので到達度の理解がはかれる指標となっている。

(富田委員) 歯科衛生士会として復職支援やスキルアップ支援のために協力していただきたい。

(今井) 復職支援については、本学園グループにおいても生涯就職支援制度の取り組みとなるので、積極的に取り入れたい。

7. 閉会挨拶 (中村理事長)

自己点検、自己評価を情報公開できない学校がある中、本校は情報公開できている。職業実践専門課程の認可を受けている専門学校は日本全国の約 3000 校のうち 1000 校しかない。それも委員の方がたの協力のおかげだと考えている。順調に運営できることについて、本日のご参加について感謝をお伝えし閉会の挨拶とした。

以上

評価内容及び委員会での意見を踏まえた改善方策について

今回の学校関係者評価結果ならびに委員会での意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、翌年度における重点課題への反映及び、具体的な取り組みに落とし込んでいく。

とりわけ、2021年度の学校関係者評価並びに委員の意見を踏まえ、昨今のコロナ禍に象徴されるような、感染状況により学習方法を柔軟に変更することが求められた際に、業界の求める知識・技術をはじめ、本来 臨地・臨床実習などの学外実習で身につくような現場対応力やコミュニケーション力についても学内実習で習得できるような、多様性のある学習方法を開発・実践していく。また、歯科衛生士専任教員の歯科分野における研修を通じてより質の高い教育への改善を図る。
